

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 2 〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
〔 3 〕 チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成
生体機能診断支援領域（診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士）

| | | 整理番号 | 24 |
|--|-----------------------------|-------------------------------------|----|
| 申請担当大学名 (連携大学名) | 筑波大学 (茨城県立医療大学) 計 2 大学 | | |
| 事業名 | 多職種連携医療専門職養成プログラム | | |
| 事業責任者 | 筑波大学医学群長 原 晃 | | |
| 事業の概要 | | | |
| <p>筑波大学医療科学類、茨城県立医療大学放射線技術科学科、同大学理学療法学科の共同事業。</p> <p>学部教育プログラム：1) 画像情報、2) 生理機能情報、3) 臨床検査情報の評価をテーマにしたシナリオや実習をもとに、それぞれの学部(類)学生が治療やケアについて討論する(年4回)。</p> <p>教育指導者養成プログラム：生体機能診断支援メディカルスタッフのための履修証明プログラムを筑波大学に開設。臨床実習指導を担当するメディカルスタッフが専門的視野を広げ、最新知識を獲得する履修証明プログラムを平成27年度から開設。両大学合同公開講座もプログラムに組み込み、この専門医療領域にかかわるメディカルスタッフの人的交流も活性化させる。臨床経験と最新の知識を有する臨床実習指導者を育成するプログラム。履修証明プログラムは e-learning と年4回の集中講義にて行われる。</p> | | | |
| 推進委員会からの主なコメント | | ：優れた点等、 ：充実を要する点等 | |
| <p>生体診断支援ワークショップ、OSCE の取り組みは高く評価できる。</p> <p>教育指導者養成プログラムについても、十分考慮されている。e-learning による卒後教育の充実は波及効果が高く、事業の継続も期待できる。また、プログラムへの参加者に制限がない点も評価できる。</p> <p>臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士の合同プログラムであり、共通の疾患を多面的に評価する試みは、日常診療においても効果が期待できる。</p> <p>事業の実施体制に医学群長を始め多くの医師が関与している点が評価できる。</p> <p>技師会等外部団体が事業の評価に参加している点が評価できる。</p> <p>大学、病院、各種メディカルスタッフの連携体制が、事業全体として実施しやすい環境が計画されている。</p> <p>e-learning コンテンツの内容が不明確なため、充実が望まれる。</p> <p>目標設定及び評価指標の設定がやや不明確であり、より具体化されることを期待したい。</p> <p>多職種連携医療専門養成プログラムとして、メディカルスタッフが一堂に会してできるプログラムを実施することで、多職種連携が更に活性化することを期待する。</p> | | | |